

5. アカマツ林の適正管理

- ◆ 北杜市のアカマツ林は6.3千ha（人工林、天然林が半々程度）あり、北杜市内の森林面積の約14%と地域にとって重要な位置を占めている一方、マツクイムシ被害が継続的に発生。
- ◆ その保全については、森林病虫害等防除法に基づき、保全すべき松林等の区域指定が行われており、その面積はアカマツ林面積の5割程度となっている。
- ◆ 主な防除実施方法としては、知事による駆除命令、森林所有者等による自主防除措置となるが、後者については、厳しい財政事情の中、市負担による伐倒駆除等が実施されている状況。

※三位一体改革に伴う税源移譲により、平成18年度より国庫補助の対象は被害拡大先端地域（標高800m以上）に限定された。

【区域指定の状況】

		実施方法	指定面積	アカマツ 総面積 (a)	(b)/(a)
県 指 定	高度公益機能森林	駆除命令	143	6,329	50%
	被害拡大防止森林		12		
市 指 定	地区保全森林	自主防除	1,273		
	被害拡大防止森林		1,750		
合 計 (b)			3,178		

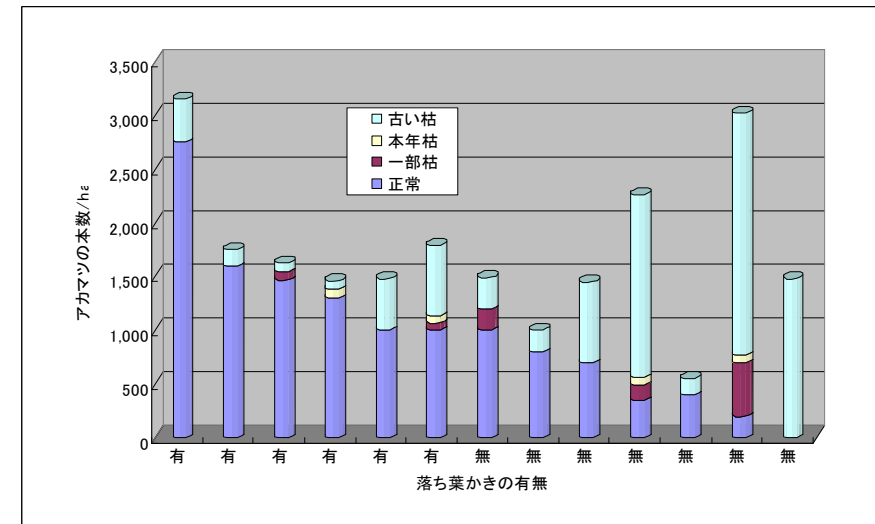
【伐倒駆除の様子】



※北杜市内

- ◆ 現在、市による伐倒駆除等については、被害先端地域や道路等の公共施設に影響を及ぼす箇所等につき優先的に対応しているところ。
- ◆ 松林を適正に管理していくためには、森林所有者の自主的な努力が不可欠となっており、保全松林における雑草木の除去等の林床整理や、周辺松林における抜伐り・樹下植栽等を図ることも重要。

【アカマツ林の手入れと枯損率】



※（独）森林総合研究所四国支所HP

6. 市民参加の森づくり

◆ 北杜市民の自然環境保全に対する関心は非常に高く、これまでも学校林整備や緑の少年隊育成など、各種の緑化活動を行ってきたところ。

◆ また、ボランティアやNPO等による森づくり活動も積極的に行われてきており、林業従事者の減少・高齢化等により停滞する森林整備の「サポーター」として注目される。

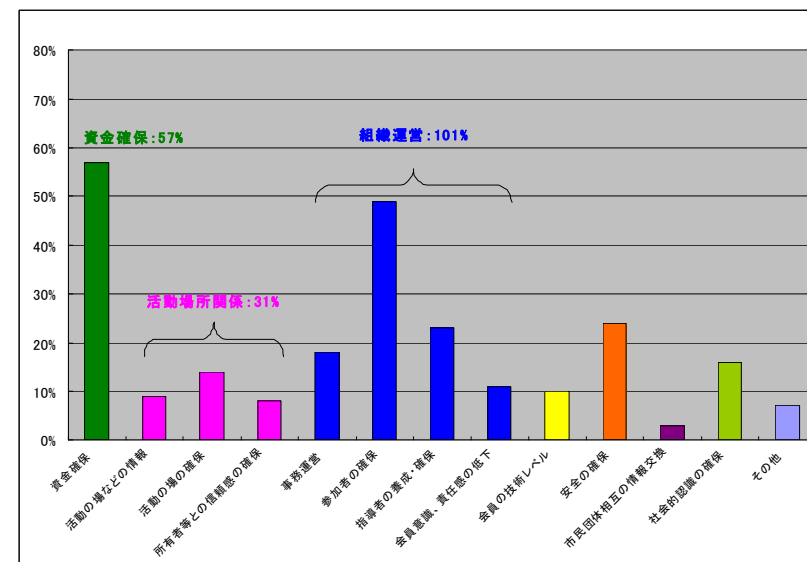
◆ 健全な森林を育成していくためには、市民全体で森林を支える意識の醸成とボランティア等の活動に対する支援を行っていくことが重要。

◆ その支援に当たっては、ボランティア精神の重要性を踏まえつつ、活動場所の紹介などニーズに合ったものとする必要がある。

【主な緑化活動等】

	活動内容	実施主体
森林体験プログラム	「森林文化の森」における活動	山梨県
森林づくりフィールドネット	活動フィールドの紹介等	山梨県
学校林整備・保全事業	PTA等が行う学校林整備に対する支援	北杜市（緑化推進機構の交付金を活用）
緑の少年隊育成事業	緑の少年隊の育成活動	
市町村緑化推進組織活動事業	地域の緑化活動等に対する支援	
100万本植樹運動	県有林における植林活動	県緑化推進機構

【森林づくり活動で苦労している点】



※林野庁（森づくり活動についてのアンケート）